

いしかわ

まちづくりView

No.9

目次

交通実験2000.....	1・2・3
あのみち、このまち“まちづくりめぐり”	
～金沢駅武蔵北地区市街地再開発事業（第二工区）工事に着手～.....	4
～まちづくりの拠点“寄合処御祓館（よりあいどころみそぎかん）”～.....	5
まちづくりの動き	
まちづくり総合支援事業の創設.....	6・7
センターだより.....	8

財団法人いしかわまちづくりセンター

特集

交通実験2000

1. 交通実験の意義

交通実験とは、望ましい交通体系の確立のため、社会に大きな影響を与える可能性が高い新しい施策の導入に先立ち、期間・場所を限定して試行するとともに、試行結果の評価を行い、施策を本格的に導入するか否かの判断材料を得ることです。

この試行段階において、その施策を県民・市民が実際に参加・体験することにより、意識の高揚が図られ、施策に対する意向や各々の利害を把握することが可能となります。そして、実験を繰り返し行うことにより、行政と県民・市民が共に問題点を改善しながら、試行という段階を通過し、最終的な実施に至ります。



（狭さくと速度規制標識：ドイツでは、いつでもどこでも社会実験が実施出来るように、このような道具がコンテナに入れて準備されています。）

2. 交通実験の事例

交通実験は、交通計画における住民参加の有力な手法として、先進諸外国では、既に日常的な感覚で導入されています。

近年、日本においても、交通実験の持つ意義が全国的に注目され、色々な都市において交通実験が行われています。ここでは、その事例についてご紹介します。

2-1 全国の主な事例（H11～H12）

- 浜松市（トランジットモール実験）
- 東京都世田谷区（ミニバスルート新設実験）
- 海老名市（電気自動車によるエコパーク&ライド）
- 鎌倉市（パーク&バス・レールライド）
- 豊田市（低公害車による車両共有化・カープール）
- 大阪府（拡大パーク&レールライド）
- 松江市（ボンエルフ実験）
- 大宮市（歩行スペース確保と路上駐車排除）
- 柏市（トランジットモール、歩道の拡幅など）
- 福山市（パーク&ライド、バス専用レーン）

静岡県（浜名湖南岸パーク＆レールライド）
豊中市（トランジットモール、無料循環バス運行）

2 2 県内の事例

県内においても、これまで以下のような実験が行われています。

- H 4 通勤時パーク＆ライド試行実験
（野々市、金沢市北部 都心部）
- H 5 通勤時パーク＆ライド試行実験
（野々市、金沢市南部 都心部）
リバーシブルレーン試行実験（菊川～鱒町）
- H 6 地区交通計画実験（金沢市長町地区）
- H 7 快速バスの試行導入（金石線）
- H 8 時差出勤試行実験（金沢市問屋団地）
- H11 通勤時パーク＆ライド試行実験
（金沢市四十万方面 都心部）
パーク＆レールライド（額住宅前駅）
リバーシブルレーン試行実験（寺町～幸町）

3 . 「交通実験2000」の実施



（H12.10.16北陸中日新聞掲載）

3 1 実験の概要

平成12年10月10日（火）から15日（日）の6日間、石川県、金沢市、石川県警、建設省金沢工事事務所が実施主体となり「交通実験2000」を実施しました。

現在、金沢の都心部においては、以下のような課題が挙げられます。

- 朝、夕の慢性的な交通渋滞
- 都心部に用のない通過交通の増加
- 交通混雑による環境悪化
- 中心市街地の空洞化・衰退
- 高齢化社会への対応

そこで、今回の「交通実験2000」の目的を以下の3つとしました。

- 公共交通の利用促進
 - 中心市街地の賑わい創出
 - 新しい交通システム導入に向けた交通への影響評価
- 具体的な実験メニューは、次のとおりです。

バスの走行性の向上として

バス専用レーンの時間延長・区間延伸

バスの利便性の向上として

最終バス時間の延長

パーク・アンド・ライドの臨時拡大

バス料金の低減施策として

買物バス券の発行

3 2 実験の具体内容

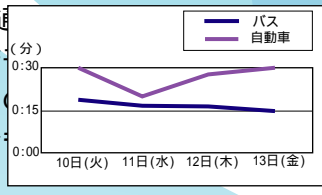
1) バス専用レーンの時間延長・区間延伸

有松 むさし、むさし 片町において、朝・夕のバス専用レーン規制（7:30～9:00, 17:00～18:30）を日中も実施（7:30～18:30）しました。また、上有松 有松において、バス専用レーンを延伸（7:30～9:00）しました。



（バス専用レーン時間延長：H12.10.10北陸中日新聞掲載）

この結果、国道157号の交通
周辺道路では渋滞回数が若
宮 片町の所要時間は、朝
もバスの方が最大で約15分
た。



(所要時間の曜日変化 横宮 片町 8時)

2) 最終バス時間の延長

利用客の多い市内6路線(松任・四十万・光が丘・金石・東部車庫・平和町)において、夜間の終バス時間を深夜12時まで延長しました。結果、午後10時以降のバス利用者は、実験2週間前と比べ、木曜日では微増、土曜日では倍増しました。



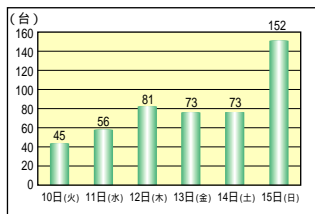
(増便バス走行風景と車内の様子)

3) パーク&ライド臨時拡大

実験期間中6日間を通じ、野々市町横宮において、約150台収容の無料駐車場を設置し、パーク&ライドの臨時拡大を行いました。利用者には、都心部までの往復のバス券(片道270円)を進呈しました。利用台数・人数ともに、日を追うごとに増加し、最終15日(日)には、152台309人と、ほぼ満車の状態となりました。



(野々市町横宮の臨時駐車場)



(利用台数の推移)



(建設省金沢工務事務所による接近表示看板)

同時に、駐車場までのバス接近情報・都心部までの所要時間情報の提供が、路上の情報看板および携帯電話(iモード)により、提供されました。

4) 荷捌き車・客待ちタクシー対策

また、バス専用レーン規制実施により、臨時荷捌きスペースの確保を行い荷捌き業務への対策としました。また、客待ちタクシーについては、タクシーベイを現行どおり確保しました。



(臨時荷捌きスペースの案内看板)

5) 買物バス券サービス

10月の14日(土)、15日(日)には、都心部の5つの商店街のイベントである「5タウンズフェスタ」が実施され、それに合わせる形で、買物バス券サービスを実施しました。これは、バスで都心に訪れた人が、「買物バス券サービス加盟店で2000円以上買い物をした場合、200円のバス券がもらえる」というシステムです。料金面でのバス利用向上施策として約1,500の方が利用しました。



6) バス+歩行者天国

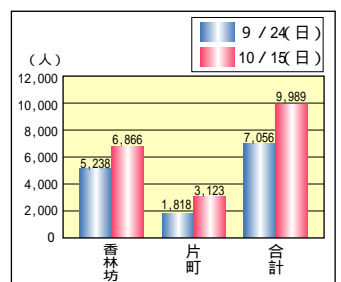
15日(日)には、国道157号の香林坊から片町の間で、4車線のうち片側2車線が歩行者天国、もう2車線をバスのみ通行可能な「バス+歩行者天国」を実施しました。



(H12.10.16 北國新聞掲載)

これは、「中心市街地の賑わいの創出」をねらいとしたもので、実際、実験前の9月24日と比べて、香林坊・片町地区へのバス利用者は、約3,000人増加しました。

「交通実験2000」では、このような実験メニューに合わせ、交通への影響調査・利用者アンケート調査を実施しており、県民・市民の意向やその効果・問題点について把握した上で、今後の都心交通計画に反映させていきたいと思っております。(都市交通係)



(都心部主要バス停における降車人数変化)

金沢市

～金沢駅武蔵北地区市街地再開発事業（第二工区）工事に着手～



第二工区で建設する再開発ビルは、『福祉機器情報センター（仮称）』と良質な分譲マンションからなる複合施設であり、賑わいと風格ある都市空間を創造します。



第二工区再開発ビル（平成14年3月竣工予定）

金沢駅武蔵北地区は、金沢駅と金沢市の代表的商業地である武蔵ヶ辻を直線で結ぶ金沢駅通り線（幅員36m）の中程に位置します。

都市の骨格である「都心軸」の一部を形成する重要な地区であり、土地の高度利用とともに商業・業務等の都市機能の拡充が望まれていた地区です。

昭和51年に、金沢市の施行による第一種市街地再開発事業として都市計画決定を行い、以来5つの工区に分けて、金沢駅通り線をはじめとする公共施設と沿道の施設建築物の一体的整備を図って来ます。

すでに、第一工区の「ライブ1」ビルと第五工区の「リファレ」ビルは完成していますが、残る工区のうち第二工区が、去る8月に起工しました。

地上1階・2階の『福祉機器情報センター（仮称）』では、福祉機器の展示や福祉に関する相談・情報提供等、高齢者や障害者の方々の自立と社会参加を総合的に支援します。

地上3階から13階には、長寿社会対応仕様の4タイプ41戸の分譲マンションを建設します。



『福祉機器情報センター（仮称）』イメージ



第二工区着工前の金沢駅武蔵北地区（平成8年）



住居タイプ
3LDK
4LDK

（都市デザイン係）

よりあいどころ みそぎかん ～まちづくりの拠点 “寄合処御祓館”～

「寄合処 御祓館」は、七尾街づくりセンター（株）（TMO）がインキュベーター施設として、旧十二銀行跡の建物を活用して、整備しました。（平成11年11月着工、平成12年4月竣工）



寄合処 御祓館

七尾駅前パトリアと能登食祭市場を結ぶシンボルロードの中心に位置し、土蔵造瓦葺二階建てで壁の黒と窓枠などの白が重厚な外観を見せ、屋根に作られた排煙窓を兼ねた塔屋が特徴となっています。

1階はテナントとして、工芸品店「ギャラリー葦（あし）」が入り、2階は（株）御祓川事務所、研修室、倉庫となっています。



研修室でのオープン記念フォーラムの様子

ギャラリー葦は、「食」をテーマとして陶器を中心に工芸品を販売し、作家と使い手を繋ぐコミュニケーションの場として企画展やイベントを開催しています。また、御祓川の浄化というマチの問題とミセの関係を明確にするための空間としてプロデュースされています。



ギャラリー 葦

御祓川2号館は、まちづくり会社（株）御祓川が、界隈の賑わい創出のため、御祓館に隣接して建設し、去る7月に完成しています。1階には（有）七尾菓子研究所「菓林」、2階にはビューティーパッションYOUが開店しています。いずれも（株）御祓川が開催しているマーケティング塾（実践的な事業者向けの店づくり講座）第1期生からの出店で（株）御祓川によりプロデュースされています。



御祓川2号館

七尾菓子研究所は、七尾市内の和菓子製造販売店5社が共同で市場や技術等の開発を行い、七尾の和菓子文化を創造するために設立しています。現在、地元産の栗を使ったお菓子の商品開発に乗り出しています。ビューティーパッションYOUは、東部商店街で経営する美容室が移転したものです。「やすらぎ」をコンセプトに、店づくりに工夫を凝らしています。また、川沿いに位置するということで、パーマ液やヘアカラーの排水を無害に近い形にできるシステムを取り入れています。

御祓館周辺がまちづくりの拠点となり、周辺基盤整備と連携して界隈の賑わいを創出し、中心市街地活性化の起爆剤となるよう期待されています。

（まちづくりセンター）

まちづくり総合支援事業の創設

1. 制度の目的

「地域が主役のまちづくり、地域の創意工夫を活かしたまちづくり」を推進するため、中心市街地活性化等の地域だけでは解決困難なまちづくりの課題（特定重要課題）に対して、地域と国が協力して、積極的に問題の解決に取り組む補助制度として平成12年度に創設されました。

特定重要課題（地域のまちづくりの課題）

- ・ 中心市街地の活性化
- ・ 防災、環境等問題のある地域の改善
- ・ 新しい都市拠点の整備
- ・ 水、緑、文化、歴史的空間の整備
- ・ 新都市機能の導入
- ・ 人口定着、交流機能強化による均衡のとれた地域振興
- ・ 広域的な連携に基づく地域活性化
- ・ 交通網の整備改善等に伴う地域づくり

採択されるためには、総合的なまちづくりの必要性が認められ、まちづくり事業計画が策定されており、市町村事業であることが必要です。

（補助率 1 / 2 ~ 1 / 3）

パッケージで一括助成

特定重要課題の解決のために「まちづくり事業計画」に位置づけられた複数の市町村事業を地区で一括採択し、年度毎に補助金を地区に一括交付します。

多彩な補助メニュー

道路、街路、公園、河川、下水道、共同駐車場、多目的広場・集会場・情報板などの地域生活基盤施設、緑化・石畳・モニュメントなどの高質空間形成施設、特定事業調査などの要素事業から為る多彩な補助メニューが対象となります。

使いやすい補助制度

補助金の交付が地区単位で一括して行われるため、地区内での異なる要素事業への額の移動が可能です。

2. 制度の概要

まちづくり総合支援事業は「まちづくり事業調査」と「まちづくり総合整備事業」からなります。

・ 「まちづくり事業調査」

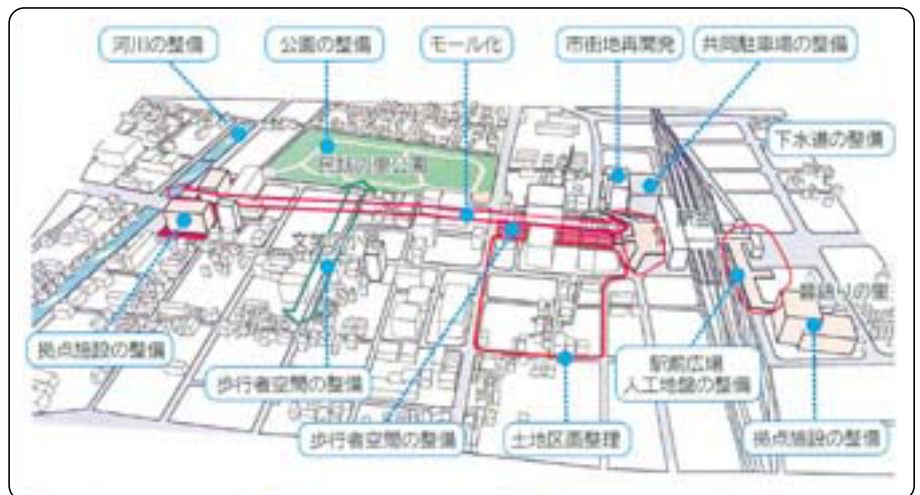
市町村が行うまちづくり総合整備事業の実施に向け、事業計画の策定等に対し補助されます。

（補助率 1 / 3）

・ 「まちづくり総合整備事業」

市町村が策定した事業計画に基づき、道路、公園、河川、下水道等の施設の整備を総合的に実施するものです。

[まちづくり総合支援事業のイメージ図]



駅前広場

地区の玄関口となる駅前広場の再整備と高質化



散策路

伝建地区関連の散策路ネットワークの整備



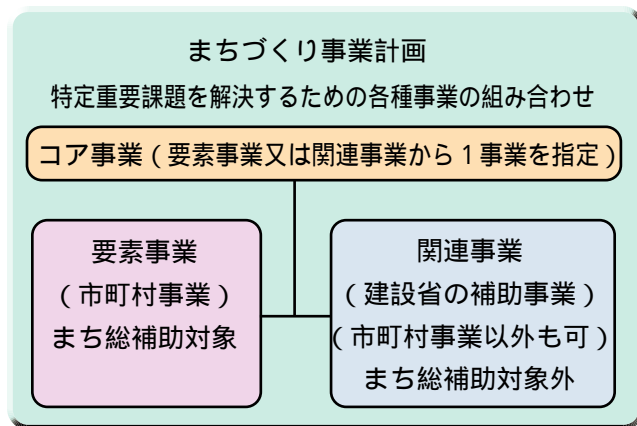
交流施設

歴史的建造物を活かした交流施設の整備



3. まちづくり事業計画

まちづくり事業計画は、特定重要課題に対する解答となるまちづくりの方向性、そのために組み合わせられる各種事業（要素事業）の計画等を記載したものです。事業計画は市町村が策定し、都道府県を經由して国の同意を得ます。計画期間は概ね5年です。



4. 県における窓口

総合窓口 都市計画課街路係

要望 対建設省とりまとめ...都市計画課街路係
交付申請 各市町村窓口及び指導...コア事業所管課

5. 県内での実施状況例

現在、県内では事業地区として、金沢中央地区（金沢市）、七尾駅前地区（七尾市）、大聖寺地区（加賀市）、橋立地区（加賀市）の3市4地区が事業化されており、調査地区として輪島地区（輪島市）が調査中です。

参考事例

七尾駅前地区（七尾市）

特定重要課題「中心市街地の活性化」

対象面積：34ha

事業期間：H12～H16

コア事業：府中七尾駅線（街路事業）

要素事業：市道修景整備、地中化（道路事業）

橋梁整備（街路事業）

街角公園、広場、コミュニティ施設

（地域生活基盤施設）

関連事業：府中七尾駅線（街路事業）

（街路係）

まちづくりQ&A

Q. 『まちづくりファンドとは』

A. 住民のまちづくり活動を支援するために設けられた基金のことをいいます。ファンドの原資は、行政からの出資や企業・住民からの寄付が充てられています。都市環境、自然保護、社会教育等幅広い分野で、市民の自発的、自立的な活動に対して支援されています。公益信託制度を利用することが多く、この場合ファンドを受託者（信託銀行）が管理運営し、原資を残したまま、収益金を助成費として交付します。行政や直接まちづくり活動にかかわっている組織とは別の中立的組織が助成先を決定します。ここでは代表例として、公益信託「世田谷まちづくりファンド」を紹介します。

世田谷まちづくりファンドは、住民、行政、または企業のいずれにも属さない独立した立場から、住民主体のまちづくり活動を支援することを目的に、

（財）世田谷都市整備公社が1992年に基金を設定しています。その後、市民や企業からの寄付を集めて拡大しています。

世田谷区内における活動を助成対象としており、まちづくりははじめの第一歩助成 まちづくり活動助成 まちづくりハウス設置・運営助成 まちづくり交流助成の4つの部門があります。まちづくりハウス（専門的な技術や経験豊富な住民や専門家が、住民主体のまちづくりを支援または実践する非営利組織）の設置・運営助成が特徴です。助成の決定については、公開審査会を開催して、申請者がプレゼンテーションを行い、ファンド運営委員が助成先を決定します。助成を受けた団体は、報告会において活動内容を報告するとともに、共通の悩みやファンドのあり方などについて議論します。各団体が集まることにより交流の効果は大きく、ファンドは資金の援助以外にも情報やネットワークなど様々なものをもたらし、まちづくりを支援しています。（まちづくりセンター）

まちづくり情報の提供

ホームページを全面リニューアルしました

当センターのホームページの左側に業務項目を新たに設け、中央には県内のまちづくりを画像で紹介できるようにしました。みなさまからのデジタル画像のご提供を待っております。また、最新情報も案内できるようにし、見やすく、親しみのもてる内容に改めました。

これまで発行した「いしかわまちづくり View」が全てご覧いただけるようになりました。また「専門家の紹介」、「石川県土地区画整理組合連合会」の項目を追加し内容を充実しました。データベースでは「まちづくりライブラリーリスト」、「まちづくり活動団体リスト」を掲載しております。



まちづくり活動団体リストの紹介



当センターでは、8市18町のご協力により「まちづくり活動団体リスト」を作成しました。県内のまちづくり団体の活動状況を紹介しています。ご利用ください。

まちづくり活動団体リスト

まちづくりの啓発と指導

まちづくりの行事開催

まち・再発見フォトラリー in こまつ (H12.8.11)

80人の小・中学生が小松市の中心部を散策しながらまちの好きな場所、嫌いな場所をカメラに収め、撮った写真をもとに「まち・再発見ポスター」を制作しました。「古くからの街並みが結構残っている」、「歩道に立つ電柱が邪魔になる」など、自分たちのまちの、普段はあまり気がつかないところに目を向ける良い機会となりました。



フォトラリーの様子

子どもまちづくり塾2000 (H12.10.15)

金沢市内の小・中学生60人が参加しました。「未来の金沢のまちと交通」をテーマに、午前中はワークショップ形式での学習会のあと、当日行われた交通実験を見学しました。午後は未来の金沢のまちの姿や乗り物を想像して物語をつくり、壁新聞としてまとめました。まちづくりや交通施策について子どもたちに興味を持ってもらえたと思います。



学習会の様子

編／集／後／記

今回は、都心部の望ましい交通環境の実現のため実施された交通実験について特集しました。実験の結果が今後の都心交通計画に有意義に活用されることを期待するとともに、これからのまちづくりにおいては、実際に住民が参加・体験し、その問題点を改善していくという、住民参加型のまちづくりが大切ではないでしょうか。

編集協力：石川県都市計画課

発行：(財)いしかわまちづくりセンター

TEL 076-223-9448 FAX 076-223-0161

HP://www.pref.ishikawa.jp/machicen/index.htm

発行日：平成12年12月